

測定する能力	
論理的言語力	論理的読解力A
論理的読解力B	論理的思考力
論理的表現力	

\*\*\*

### 問題I

#### 論理的言語力

##### 第一問

■解答 (各3点)

- (1) 言葉の役割は (2) 私たちは

##### ■解説

- (1) 何が「なく」なのかを考える。  
 (2) だれが言葉を使っているのかを考える。

##### 第二問

■解答 (各3点)

- (1) しまつて (2) わからないから、

##### ■解説

- (1) 「心に」↓「しまつて」であつて、「心に」↓「おきなさい」ではない。  
 (2) 「明日は」↓「わからないから」であつて、「明日は」↓「起こるか」ではない。

##### 第三問

■解答 (各2点)

- (1) まるで (2) むしろ (3) もし

##### ■解説

- 副詞の呼応の問題。  
 (1) 「まるで」→「ようだ」が呼応関係。  
 (2) 比較の「むしろ」。  
 (3) 「もし」なら「が呼応関係」。

##### 第四問

■解答 (各2点)

- (1) エ (2) ウ (3) ア

##### ■解説

- (1) 「テレビの」↓「予報では」、「天気」↓「予報では」、「予報では」↓「晴れる」、「明日は」↓「晴れる」、「晴れる」↓「らしい」。  
 (2) 「人生には」↓「ある」、「命を」↓「かけて」↓「戦わなければならない」↓「時が」↓「ある」。  
 (3) 「私は」↓「会った」、「今日」↓「会った」、「あなたと」↓「会った」、「夢の」↓「中で」↓「会った」。

##### 第五問

■解答 (各3点)

- (1) エ (2) イ

##### ■解説

- (1) 「みる」はとりあえずやってみるという意味。  
 (2) 「しておく」は自発的にその状態を保つという意味。

##### 第六問

■解答 (各2点)

- (1) ウ (2) ア (3) カ (4) エ (5) イ

##### ■解説

- (1) 前文の話の流れをひっくり返しているので、逆接の「しかし」。  
 (2) 前文の理由が、後文となっているので、理由の「なぜなら」  
 (3) 具体例を紹介しているので、例示の「たとえば」。  
 (4) 前文を前提に、後文を付け加えているので、添加(付け加える)の「そのうえ」。  
 (5) 後文の原因が、前文となっているので、因果(順接)の「だから」。

\*\*\*

### 問題II

#### 論理的読解力A

##### 第一問

■解答 (8点)

##### ■解説

逆接の「しかし」に着目。「きずあととは死ぬまで消えぬ」と反対の内容は、「今だに親指は手に付いている」。

##### 第二問

■解答 (6点)

##### ■解説

「これはくりだ」が、主語と述語の関係から、「これ」＝「くり」だと分かる。また、命より大事なものは、くりの木のくり。

##### 第三問

■解答 (6点)

- (1)

##### ■解説

「から」は理由を表す。(1)の直前は、「二階から首を出していた」なので、理由ではない。

##### 第四問

■解答 (各6点)

- イ エ

##### ■解説

- ア 「勘太郎」という十三、四のせがれ」とあることから、勘太郎は十三、四歳。その勘太郎はおれの「二つばかり年上」なので、「十四、五歳」は、×。  
 イ 三つ目の体験話に書かれているので、○。  
 ウ 勘太郎はくりを盗みに来るので×。  
 エ 「勘太郎を垣根へ押しつけておいて、足からかけて向うへ倒してやった」とあるので、○。  
 オ 「おれ」の二の腕にかみついたのは勘太郎の方なので、×。  
 カ 山城屋に遊びに行ったのは、「おれ」の母の方なので、×。

##### 第五問

■解答 (8点)

##### ■解説

最初に「親ゆずりの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている」と伝えたいことを述べ、次にその体験話を紹介しているので、アではなく、イが答え。ウはどの体験話が一番重要かは客観的に決められないから、×。体験話はあくまで冒頭の伝えたいことの身近な例だから、エとオも×。

\*\*\*

### 問題III

#### 論理的思考力

##### 第一問

■解答 (8点)

##### ■解説

答え探しの教育のために、自分でものを考えることができる。自分が「そのために」に着目。「その」の指示内容は「答え探しの教育」。「答え探しの教育」↓「自分でものを考えることができる」といった因果関係をつかまえる。

第二問

■解答 (8点)

昔は足の裏が季節感を感じ取ったが、今はそれを  
感じ取れなくなっている。

■解説

「昔」と「今」とが対立関係になっていること  
に着目する。「足の裏が季節の変化を感じ取っ  
ていた」「今や季節感を感じ取れなくなっている」  
がそれぞれの要点。

第三問

■解答 (各5点)

(1) 日本語は他者に寛容な、美しくて深い言葉で  
ある。

(2) 表情は言葉よりも、自分の気持ちを伝えるこ  
とができる。

別解(言葉よりも、表情は自分の気持ちを伝えることが  
できる。)

■解説

(1) 「日本語は言葉である」が、主語と述語の関  
係。他、「他者に寛容な、」↓「言葉」、「美  
しくて深い」↓「言葉」とつながっている。  
(2) 「表情は伝えることができる」が、主語と述  
語の関係。「言葉よりも」↓「伝えることが  
できる」、「自分の気持ちを」↓「伝えるこ  
とができる」とつながっている。

第四問

■解答 (2点×4)

(1) また 美しい (2) ましろう 勝利

■解説

(1) 彼女はご飯よりもバナラのアイスクリームが  
好きだ。  
(2) 君はいつも遅刻するから気をつけなければな  
らない。

第五問

■解答 (6点)

関東地方には平安時代の公家文化とは異なる独  
自の文化がある。

■解説

①が要点となるので、②を「独自の文化」を  
説明した文章に変形する。また①と②の共通  
の言葉が「関東地方」であることに注目。

問題IV

論理的読解力B

\*\*\*

第一問

■解答 (8点)

E ↓ B ↓ A ↓ D ↓ C

■解説

各段落の冒頭に着目すると、A「では」、C「も  
ちろん」、D「実際に」とあるので、BかEか  
ら始まる。ところが、Bの初めに、「サンデさ  
んからも」聞いたことがあります。」とあるので、  
Bは二つ目の体験話だと分かる。そこで、Eか  
ら始める。日本の学生が積極的に発言しないこと  
を否定的に捉えがちだが、果たしてそうだろうか  
という内容。

Bもそれを受けて、積極的に発言することの  
問題点を指摘した二つ目の体験話。EとBの  
問題提起を受けて、Aは日本人の学生が積極的  
に質問をしないのは、必ずしも受動的な態度で  
はないという内容。

DはAの内容を受けて、それを裏付ける  
「私の体験」。そして、Cは今までの体験話を  
受けて、日本人は相手との距離を保ちながら、  
上手に人間関係を構築するとし、そうした日本  
人のありようが日本語に現れているので、それ  
を「美しい日本語」の精神を世界に伝えていく  
べきであるという最終結論。

第二問

■解答 (6点)

積極的に発言すること。

■解説

直後の「積極的に質問をしない日本」と対立関  
係になっていることに注意。

第三問

■解答 (6点)

日本人は集

■解説

「具体的に説明した」「二文」「始めの五字」  
といった条件に注意。直後の「日本人は集団の」  
ことはできません」が、——線部の具体的な説明。

第四問

■解答 (各3点)

敬語 婉曲表現

■解説

直後に指示語「そうした」があり、「日本人の  
ありようが、敬語や婉曲表現など、日本語に現  
れている」とある。

第五問

■解答 (6点)

■解説

線部は、日本の高校生や大学生のありよう  
が受け身だが、果たしてそうかということ。段落  
Aの末尾に「それが決して講義を受動的に受けて  
いるとは、私には思えないのです」とある。

第六問

■解答 (8点)

■解説

■解説

どの選択肢も基本的には本文に書かれてあつ  
て、必ずしも間違いとは言えない。だが、設問は、  
正しいものを選びではなく、「最も言いたいこと  
は何か」であることに注意。

A「日本人のあり方が日本語に現れている」↓  
(だから) B「日本語の精神文化を世界に伝えて  
いくべきだ」という論理展開。A ↓ Bの場合、  
Bが最終結論。

\*\*\*

問題V

論理的表現力

第一問

■解答 (7点)

■解説

「人口ピラミッド」を見ると、男女とも「三十歳、  
三十九歳」が最も多い。

第二問

■解答 (7点)

■解説

「人口ピラミッド」を見ると、男性の八十歳以  
上が最も人数が少ないと分かる。

第三問

■解答 (7点)

■解説

「年齢区分別人数の移り変わり」から、平成七年  
を境に高齢者の人数が子どもの人数を上回って  
いることが分かる。

第四問

■解答 (7点)

■解説

「年齢区分別人数の移り変わり」から、昭和五  
十年が一番子どもの数が多いことが分かる。

第五問

■解答 (12点)

■解説

次第に高齢者が増え、一方、子どもの人口が減る  
という少子高齢社会となっている。  
「高齢」「少子」という言葉を使うことが条件  
なので、グラフから次第に高齢者が増え、子ども  
の数が減っていることを読み取れればいい。まさに  
少子高齢社会になっていくのが分かるはずであ  
る。